



番組

仕舞

小鍛冶 寺 吉沢 旭
 放下僧 小鼓 村井邦子
 井筒 松山幸親
 女郎花 星野路子
 山焼 寺 瀬戸洋子

地謡
 伊藤裕貴
 山中雅志
 観世芳伸
 祖父江修一

能田村

シテ 梅若 実

ワキ 飯富雅介
 長胡床 鹿島俊裕

大鼓 河村眞之介
 小鼓 船戸昭弘
 笛 竹市 学

後見 川口晃平
 山口正道

地謡
 伊藤裕貴
 吉沢 旭
 松山幸親
 山中雅志
 林 宗一郎
 上田公威
 観世喜正
 大西礼久

能言 萩大名

井上松次郎
 井上 蒼大
 佐藤 融

能鉄輪

シテ 久田 勘鷗

ワキ 飯富雅介
 早鼓之伝 ワキツレ 橋本 幸
 間 佐藤友彦

大鼓 河村総一郎
 小鼓 後藤嘉津幸
 太鼓 加藤洋輝
 笛 鹿取希世

後見 林 宗一郎
 上田公威

地謡
 伊藤裕貴
 吉沢 旭
 本田 勲
 松山幸親
 祖父江修一
 山崎正道
 観世芳伸
 大西礼久

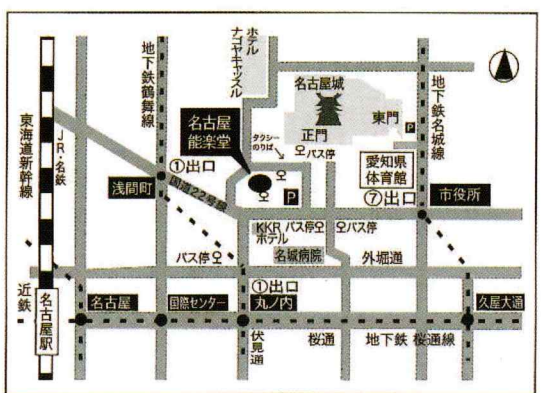
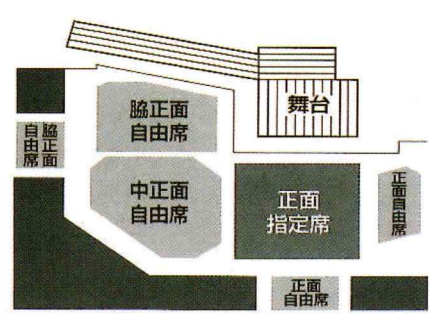
(16時半頃終了予定)

◆田村(たむら)

【あらすじ】春の季節です。東国の僧が都見物で清水寺にやって来ます。境内の桜の盛りに感心して、一人の童子が現れ、木陰を掃き清めます。僧が寺の米歴を聞き、童子は坂上田村麿と賢心・行寂居士の縁起を語り、行寂居士とは観音菩薩の生まれ変わりであると話します。そして、辺りの名所を尋ね、共に花見をしています。僧は童子の常人ならぬ様子に、名を問いますと、童子は、私の帰る先を御覧なさいと言ひ残して、田村堂へと入っていきます。僧は清水寺門前の者に田村麿の供養を勧められ、夜もすがら桜の木陰で経を讀んでいます。武將姿の田村麿が現れ、僧の読誦に感謝します。そして、自分が東夷を平らげ、悪魔を鎮め、天下泰平の志勳をしたのも、清水寺の仏力だと述べ、また、勳命を受けた、鈴鹿の賊を討伐するべく軍兵を進めた時、千手観音が現れ、その助勢で敵を倒すことができた、観音のありがたさを語ります。

◆鉄輪(かねわ)

【あらすじ】貴船神社の社人が、不思議な夢想の内容を告げようと、丑の刻(午前2時頃)参りの女人を待っています。そこへ夫に捨てられ、後妻の女を恨みに思う女がやって来ます。社人は女に、家に帰って、赤い衣を着、顔に丹を塗って、頭に鉄輪を戴き、三つの足に火を灯し、怒る心を持って、願い通り鬼神になれますと、お告げを伝えますと、女は恐ろしい形相に変わっていきます。一方、夫はこのところ夢見が悪いので、陰陽師の安倍晴明のもとを訪れます。晴明は男を見て、女の恨みで今夜にも命が危ないと見立てます。晴明は災いを転じようと、等身大の茅の人形を作り、それぞれ名前を内に籠めて祈ります。頭に鉄輪を戴き、鬼となった女の生霊が現れ、夫の人形を相手に恨みを述べ、命を取らんと後妻を激しく打ちすえますが、三十番神(30日替わりの神)が現れ、魍魎鬼神は穢らわしいと責められます。生霊は不満を残しながらも、勢いがなくなっていく、この度は帰るべしと消えていきます。



◆御案内

- 都合に依り曲目、出演者に変更があるかも知れませんが予めご承知下さい。
- 演能中は静かに又演能中のお出入りはなるべく遠慮下さい。
- 録音、撮影等はかたくお断り致します。
- 携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。
- 幼児の一場は勝手乍らお断り致します。
- 演能終了後の拍手はシテが幕に入ります迄御遠慮頂ければ幸いです。

名古屋能楽堂
 〒460-0001 名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号

TEL.052-231-0088

FAX.052-231-8756
<http://www.bunka758.or.jp/>

【主催】名古屋観世会

【共催】認定NPO法人 名古屋能楽振興協会

名古屋観世会